

# 江戸東京博物館 NEWS vol. 89

 EDO-TOKYO MUSEUM



2015年度(平成27)江戸東京博物館  
館長エッセイ

2015年度(平成27) 特別展予定

## 特別展

徳川家康没後400年記念特別展

## 「大関ヶ原展」

## 常設展示室から

常設展示室が  
リニューアルオープン!

- ◆2014年度(平成26)新収蔵品の紹介
- ◆研究の散歩道
- ◆常設展示室 リニューアル記念企画展 特別公開 広重「名所江戸百景」展
- ◆えどはくカルチャー
- ◆たてもの園から
- ◆催し物のご案内
- ◆図書室だより

# 装いも新たに第二ステージへ羽ばたく

館長 竹内 誠



去る三月二八日に江戸東京博物館(以下、江戸博と略称)の常設展示室がリニューアルオープンしました。関係各位の御尽力に厚く御礼を申し上げます。

一昨年、開館二〇周年を迎えた際、私はそれまでの第一ステージから、第二ステージへと移行すると宣言しました(小金井市にある分館・江戸東京たても園も同じ)。

第二ステージの課題は、学校連携・地域連携のさらなる強化など、いろいろ

あると思いますが、私はその基本目標の一つとして、従来の「日本のなかの江戸博」から、さらに加えて新たに、「世界のなかの江戸博」をめざしたいと思っています。

このたびのリニューアルオープンは、まさに第二ステージへと羽ばたく跳躍台に立ったことを意味しています。

いうまでもなく常設展示室は、空間的にも内容的にも、博物館の中核をなす最重要スペースです。リニューアルにあたって、いつ来ても何か新しい発見がある、何度でも来たい、そんな常設展示にしたいと工夫をこらしました。

詳細は他に譲りますが、より「わかりやすく、楽しい」展示をめざし、「江戸から東京へ(幕末維新)」および「現代の東京」の二つのコーナーを新設したほか、一例をあげれば、長屋を三戸増築し、便所と井戸を配して、風景としての長屋を再現しました。そのほか好評の体験展示を一層充実、外国語の展

示解説なども大幅に増加いたしました。ぜひ装いも新たな常設展示を御覧下さいますようお願いいたします。

今秋には、長年にわたる中国・韓国の首都博物館等との交流シンポジウムを江戸博で開催します。またこれらアジアの都市博物館との共同研究の成果をもとにした展覧会を、相互に開催する企画も検討中です。当館ではこうした国際交流を、さらに欧米の博物館をも含めて一層推進してまいります。

五年後の二〇二〇年には、東京でオリンピック・パラリンピックが開催されます。国の内外から大勢の方々が東京にお見えになることでしょう。現在は総入館者数の一〇〜一五%が外国の方々ですが、五年後にはおそらく一五〜二〇%に上昇するものと期待しています。

江戸博の具体的な使命は、江戸東京の活力ある歴史と、そこに育まれた江戸東京ならではの、しかも世界的にも



普遍性を持つ、魅力あふれる伝統文化をご覧いただくことです。

そして国内はもちろんのこと、広く世界に向かって、当館がこの素晴らしい伝統文化の情報発信拠点となることをめざしたいと思っています。

おわりに、「耳にたこ」とお叱りを受けるかも知れませんが、毎度おなじみの言葉で締めさせていただきます。

「ロンドンへ行ったら大英博へ、パリへ行ったらルーブルへ、東京へ行ったら江戸博へ」が、世界中の合言葉になること、それが私の夢です。

# 2015年度(平成27)特別展予定 (1F 特別展示室)

## 徳川家康没後400年記念特別展 「大 関ヶ原展」

3月28日(土)－5月17日(日)

徳川家康の没後400年目の節目の年に、関ヶ原合戦の全貌を紹介する展覧会を開催します。当時の貴重な古文書や、各大名家の武具・絵画のほか、映像手法を取り入れた立体感のある展示空間によって、関ヶ原合戦を振り返ります。※特別展の紹介ページでも詳しくご案内しています。

▶家康及徳川十六将図 久能山東照宮博物館蔵  
展示期間3/28－4/19(予定)



## 2015年NHK大河ドラマ特別展 「花燃ゆ」

6月4日(木)－7月20日(月・祝)

※特別展の紹介ページの「次回予告」をご覧ください。

▶松下村塾記 吉田松陰/作  
山口県文書館蔵  
展示期間6/4－6/28(予定)



## 「徳川の城 ～天守と御殿～」

8月4日(火)－9月27日(日)

徳川将軍家は、自らの拠点として江戸城を構えました。その姿の多くは失われてしまいましたが、勇壮かつ豪華な様相は絵画などに伝えられています。将軍家の関わった城は江戸城だけに限りません。駿府城・名古屋城・大坂城・二条城など列島の各所にわたりました。そこに将軍の権威をしのぶことができます。本展では、とりわけ天守と御殿に着目し、徳川将軍家の築いた城に思いを馳せます。



▶江戸城御殿守百分巻之建地割  
資料番号:89211061

## 「絵と写真のはざま」(仮称)

10月10日(土)－12月6日(日)

幕末から明治にかけての一時期、絵と写真がさまざまな影響を与え合った作品群を紹介し、日本文化の近代化の一面を明らかにします。時代が生んだ絵とも写真ともつかないような、面白い表現を楽しんでいただければと思います。

▶和装西洋男女図(1対のうち女性)  
資料番号:90364182



## 「レオナルド・ダ・ヴィンチ展」(仮称)

2016年(平成28)1月16日(土)－4月10日(日)

日伊国交樹立150周年を記念して開催する展覧会です。ルネサンス期の天才、レオナルド・ダ・ヴィンチの『鳥の飛翔に関する手稿』は、人間の飛行を予見し、その実現のために鳥の飛翔を観察して記した直筆の研究ノートで、日本初公開です。この展覧会では、ダ・ヴィンチの素描、レオナルド派の絵画作品も出品し、彼の思考を探ります。

▶レオナルド・ダ・ヴィンチ  
『鳥の飛翔に関する手稿』1505年頃  
トリノ王立図書館蔵  
©Biblioteca Reale  
(出品予定:第10紙葉裏・第11紙葉表)



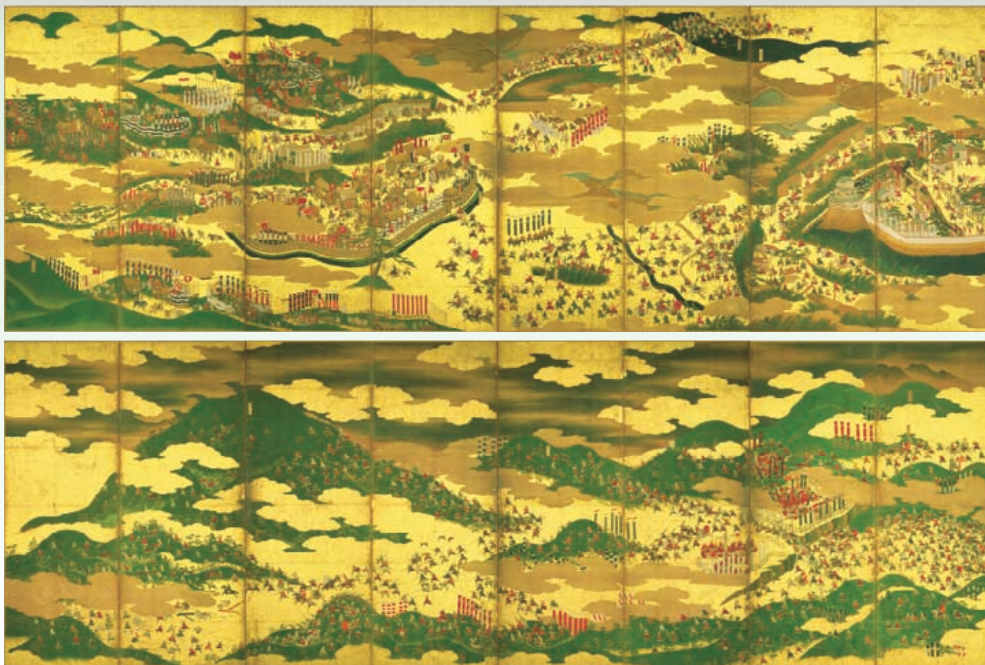
## 2015年度(平成27)企画展予定 (5F 企画展示室)

企画展の内容・会期は変更することがあります。

| 展覧会名称(仮称)                    | 会期                          |
|------------------------------|-----------------------------|
| リニューアル記念企画展 特別公開 広重「名所江戸百景」展 | 3月28日(土)－5月10日(日)           |
| 発掘された日本列島2015                | 5月30日(土)－7月20日(月・祝)         |
| 教育普及関連展(仮称)                  | 8月11日(火)－9月27日(日)           |
| 市民からのおくりもの2015(仮称)           | 10月20日(火)－12月6日(日)          |
| 天璋院の用筆筭(仮称)                  | 2016年(平成28)1月2日(土)－2月21日(日) |
| 館蔵コレクション展(仮称)                | 3月19日(土)－5月8日(日)            |

徳川家康没後四〇〇年記念特別展

# 「大関ヶ原展」



重要文化財 関ヶ原合戦図屏風 江戸初期 大阪歴史博物館蔵

天下分け目の関ヶ原合戦を制したのは、東軍を率いた徳川家康でした。今年、一六一六年（元和二）に亡くなった家康の没後四〇〇年目にあたります。この節目の年に、関ヶ原合戦の全貌を紹介する展覧会を開催いたします。

当時の貴重な古文書や、各大名家の武具・絵画などの展示のほか、最新の映像手法を取り入れた立体感のある展示空間によって、関ヶ原合戦を振り返ります。

## プロローグ 〈描かれた戦場〉

一六〇〇年（慶長五）九月十五日、朝もやが晴れると美濃国関ヶ原には銃声が響きわたり、天下分け目の合戦が始まります。その活躍や軍功は、子孫たちに伝説として伝えられ、数多くの屏風や絵巻物などの作品に描き残されました。なかでも代表作として知られる津軽家伝来の「関ヶ原合戦図屏風」（大阪歴史博物館蔵）が展示されます。

## 1 再乱の予感

一五九八年（慶長三）八月八日、太閤秀吉がこの世を去りました。その死はさまざまな対立を生み、関ヶ原の合戦へと導きます。「豊臣秀吉自筆辞世和歌詠草」（大阪城天守閣蔵）などが豊臣政権の様子を語ります。

## 2 合戦の前夜

一六〇〇年（慶長五）六月、徳川家康が会津攻めの軍勢を率い、大坂を出発します。すると事態は関ヶ原の戦いへと一気に動き出します。七月十七日には家康を弾劾する「内府ちがいの条々」（福岡市博物館蔵）に結びつき、合戦が

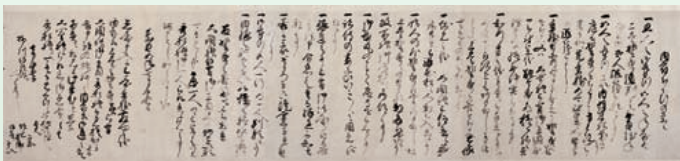


重要文化財  
伊予札黒糸威胴丸具足  
付 齒染の前立  
安土桃山時代  
久能山東照宮蔵  
展示期間：4/25-5/17

本格化します。この時の発端となる伏見城攻めや徳川秀忠勢による上田城攻めなど、関ヶ原の合戦の前哨戦が起こります。関連する作品は混乱の世の中を語ります。

## 3 決戦！関ヶ原

九月十五日、関ヶ原に東西の大名が集合しました。展示室にも家康の「金扇馬標」（久能山東照宮蔵）が登場します。家康ほか戦場に集った大名の具足や刀剣などゆかりの品々が展示されます。またプロジェクトクションによって、合戦の経



内府ちがいの条々 1600年（慶長5）7月17日 福岡市博物館蔵



金扇馬標  
安土桃山時代  
久能山東照宮蔵

#### 4 戦後の世界

##### 「天下人への道のり」

一〇月一日、京都六条河原で石田三成・小西行長・安国寺恵瓊は処刑されました。敗者が処分され、勝者の論功行賞も行われました。これにより新しい世の中が模索されることとなります。そこで注目されるのは豊臣秀頼。家康との微妙な関係は大坂の陣にいたるまで続くこととなります。

#### 5 徳川家康の素顔

戦国時代に生まれ、安土桃山時代を生きぬき、江戸時代を築いた徳川家康には、ゆかりの品が数多く残されています。スペインからもたらされた洋時計（久能山東照宮蔵）は家康の海外への視線を感じさせます。

家康ゆかりの品々は、戦国時代

過がより鮮明に表現されま

から江戸時代へとという時代の移り変わりのなかで、その時代を生きた人を語る記憶の断片でもありません。



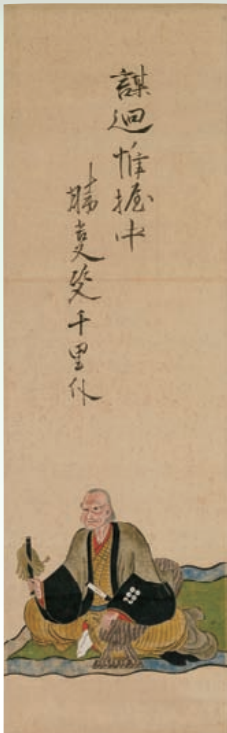
重要文化財 洋時計  
16世紀後半  
久能山東照宮蔵  
展示期間：4/25-5/17

#### エピソード

一六一五年（慶長二〇）五月八日、大坂城の山里曲輪で豊臣秀頼とその母淀は自害しました。前年の大坂冬の陣に続き、夏の陣を経て、豊臣家が滅亡の瞬間を迎えたのです。時代の移り変わりを見届けた徳川家康は、一六一六年（元和二）四月一七日、この世を去りました。

関ヶ原合戦に視点を定め、安土桃山時代から江戸時代へという時代の転換期を考えます。新しい視点で歴史をみつめる展覧会にご期待ください。

（学芸員 齋藤慎一）



真田昌幸像  
江戸時代  
上田市博物館蔵

7階図書室でも「大関ヶ原展」関連図書の特集コーナーを開催中!!

会期

3月28日(土) - 5月17日(日)

●休館日 4月6日(月)・13日(月)・20日(月)

●開館時間 午前9時30分 - 午後5時30分(土曜日は午後7時30分まで)

※入館は閉館の30分前まで

※会期中、展示替えがあります。

●観覧料金(税込)

|                   | 特別展専用券         | 特別展・常設展共通券     |
|-------------------|----------------|----------------|
| 一般                | 1,350円(1,080円) | 1,560円(1,240円) |
| 大学生・専門学校生         | 1,080円(860円)   | 1,240円(990円)   |
| 中学生(都外)・高校生・65歳以上 | 680円(540円)     | 780円(620円)     |
| 中学生(都内)・小学生       | 680円(540円)     | なし             |

※( )内は、20名以上の団体料金。  
※小学生と都内在住・在学の中学生は、常設展観覧料が無料のため、共通券はありません。  
※次の場合は、観覧料が無料です。未就学児童。身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方と、その付き添いの方(2名まで)。

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館、テレビ朝日、BS朝日、情報堂DYメディアパートナーズ  
特別協力：公益財団法人徳川記念財団、大阪城天守閣、朝日新聞社  
協賛：大日本印刷株式会社

チケット販売 東京都江戸東京博物館、チケットぴあ(Pコード：989-268)、ローソンチケット(Lコード：35250) など主要プレイガイド(手数料がかかる場合があります)。  
※特別展・常設展共通券は、東京都江戸東京博物館のみで販売。

次回予告

2015年NHK大河ドラマ特別展

「花燃ゆ」

会期 6月4日(木)

7月20日(月・祝)

今年一月から始まったNHK大河ドラマ「花燃ゆ」と連動して開催します。このドラマは、明治維新で活躍した志士を育てた思想家、吉田松陰の妹・杉文(のちの榎取美和子)の生涯を描くものです。文は、兄松陰の主宰する松下村塾の若い塾生、高杉晋作や伊藤博文らから妹のように可愛がられ、久坂玄瑞と結婚します。しかし、久坂は禁門の変で自決。夫を失った文は、長州藩の毛利家に仕えます。明治時代になり、文は、群馬県令・榎取素彦の妻となり、群馬の産業や教育の近代化に尽力し、一九二一年(大正一〇)七九歳で亡くなります。

この展覧会では、松陰と文ゆかりの品々や同時代の歴史資料を紹介することで、文とともに幕末維新期を生きた長州藩士たちの人物像と彼らが生きた時代を浮き彫りにします。

松陰の自賛肖像、久坂玄瑞から文にあてて書かれた手紙をまとめた「涙袖帖」、そのほか、木戸孝允と坂本龍馬が取り交わした、薩長同盟の内容を確認する書簡など、「花燃ゆ」の舞台を約一九〇点の資料で紹介いたします。



吉田松陰自賛肖像(中谷本)(部分)  
松浦松洞/画 吉田松陰/賛  
1859年(安政6)5月24日 個人蔵

## 新しいコーナーが登場!

常設展示室では、これまで、1603年（慶長8）の徳川家康による江戸開府から高度経済成長までの江戸東京の歴史、生活、文化を「江戸ゾーン」と「東京ゾーン」の2つに分けてご紹介してきました。

今回、これらの2つのゾーンをつなぐ空間として、「江戸から東京へ」というコーナーが新たに登場し、勝海舟の視点から幕末・維新を読み解きます。また、高度経済成長期からさらに時代を進め、1960年代から2000年代に至る東京の移り変わりをたどる「現代の東京」コーナーも新設しました。



新コーナー「江戸から東京へ」コーナー(完成イメージ図)



〈模型〉ひばりが丘団地 復元年代:1962年頃 縮尺1/1



江戸城明渡の帰途  
(勝海舟江戸開城図)  
1885年(明治18)川村清雄/画  
資料番号:85200434

## 新しい模型が登場!

今回のリニューアルでは、常設展示室に新しい模型が登場しました。

なかでも注目は、6階「江戸城と町割り」コーナーに登場した「幕末の江戸城一本丸・二丸御殿一」模型です。直径およそ6メートルの円形の中に、縮尺1/200で幕末の江戸城の本丸御殿と二丸御殿を復元しました。巨大な御殿建築は、まさに将軍の御座所にふさわしく圧巻です。既存の「江戸城本丸大広間・松の廊下・白書院」模型（縮尺1/30）とあわせて、将軍の住まいの様子をじっくりとご覧ください。

そのほか、5階「町の暮らし」コーナーでは、これまで部分再現であった「棟割長屋」模型を1棟全体に拡大。また、「江戸と結ぶ村と島」コーナーには、多摩の羽村から小金井橋、四谷大木戸を経て江戸市中まで流れる上水の仕組みをお伝えする「玉川上水流域」模型が登場しました。



〈模型〉幕末の江戸城一本丸・二丸御殿一(完成イメージ図)  
復元年代:江戸時代末期 縮尺:1/200



〈模型〉棟割長屋  
復元年代:江戸時代後期 縮尺:1/1

## 展示室が オープン!

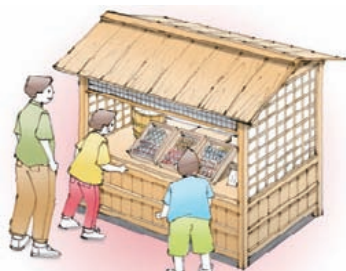
「した常設展示室。型、演出が加わり、アップしました。トをご紹介します。

## 新しい体験型展示が登場!

常設展示室では、これまで大名の駕籠かごまといや纏たもと、千両箱、人力車など実際に乗ったり持ったりできる体験模型を展示してきました。今回のリニューアルでは、体験できる模型を新たに増設しました。

例えば、天秤棒てんびんぼうを肩に担ぎ、商品を載せて売り歩いた棒手振たちの様子を実物大で再現。この模型では、当時売られていた旬の魚や野菜の複製を載せて、実際の重さが体験できるようになっています。他にも、江戸のファーストフードとして知られる寿司屋、そば屋、虫売りなどの屋台も再現。その大きさや当時の様子を実感していただけます。

また、体験学習のためのスペース「ミュージアム・ラボ」が新たに登場しました。ここでは、昔の道具に触れるプログラムなどを実際に体験することで、より博物館に親しんでいただけます。



〈模型〉寿司屋の屋台



〈模型〉そば屋の屋台



〈模型〉棒手振

(すべて完成イメージ図)

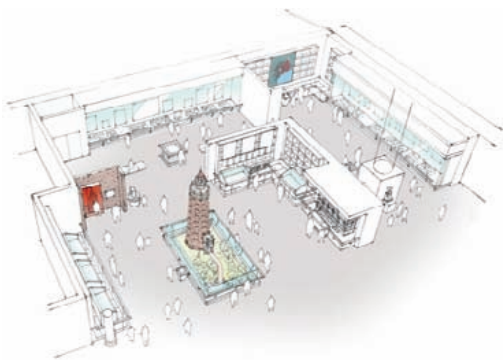
## 既存の模型も新たな演出で魅力アップ!

今回のリニューアルでは、既存の模型にも新たな演出を加え、より楽しくわかりやすく進化しました。

「助六の舞台」模型では、助六の名台詞や音楽を聴きながら、楽しみ

めます。文明開化の銀座通りを再現した「銀座煉瓦街」模型では、従来よりもガラス窓を大きく増やし、細部にいたるまでご覧いただけます。また、「凌雲閣（十二階）」模型では、照明や人形の設置により1890年（明治23）の開業時の華やかな様子を再現しました。

そのほか、「芝居小屋の構造」や「鹿鳴館」模型を、小型カメラで撮影。驚くほど精巧に作られた模型の内部や裏側まで映像でお楽しみいただけます。



「市民文化と娯楽」コーナー（完成イメージ図）



〈模型〉助六の舞台 縮尺:1/1

## 常設展 リニューアル

3月28日に「新装開展  
新しいコーナーや模  
さらにその魅力が  
リニューアルのポイント

## 設備がさらに充実!

まず、常設展示室内の展示解説に、新たにタブレット端末を導入。今まで日本語と英語でのご案内でしたが、中国語（簡体字）や韓国語、フランス語、スペイン語による解説を実現しました。

また、江戸ゾーン・日本橋下周辺・東京ゾーンのそれぞれの床の色を変え、各時代の雰囲気を感じられるようにしました。このほか、展示ケースの照明をLEDにし、より明るく鑑賞しやすい展示空間にしました。



相撲生人形  
安本亀八作 1890年(明治23)  
熊本市現代美術館蔵

3月28日(土) - 5月17日(日)

リニューアルオープン記念として、幕末の人形師・安本亀八が制作した「相撲生人形」を「市民文化と娯楽」コーナーで特別に展示します。江戸時代からの盛り場であった浅草では、さまざまな見世物興行が行われました。なかでも、まるで生きているかのように造形された生人形の見世物は、幕末から明治にかけて大変な人気を博しました。

安本亀八は、1890年（明治23）の第3回内国勸業博覧会に出品するためにこの生人形の制作を思い立ちますが、期日に間にあわず、完成後に浅草の境内に飾りました。今回はこの生人形の特別展示となります。

いきにんぎょう  
生人形を  
展示!

### 2015年度(平成27) 春期 ミュージアムトーク

4月 3日・10日 リニューアル記念企画展 特別公開  
広重「名所江戸百景」展 みどころ

4月 17日・24日 市民文化と娯楽

5月 1日・8日 江戸城と町割り

5月 15日・22日 江戸の美

5月 29日・6月5日 高度経済成長期の東京

6月 12日・19日 芝居と遊里

6月 26日 江戸から東京へ

参加方法

集合時間:16:00  
(所要時間は30分程度)  
集合場所:常設展示室5階  
日本橋下・朝野新聞社前

# 新収蔵品の紹介

多くの資料を収集することができました。

\*各資料の解説は、西村直子、朴美姫、粟屋朋子、落合則子、早川典子が担当しました。



黒紅練緯地宝尽模様腰巻 19世紀前半  
資料番号：14200049

腰巻といえは、現代では、和服を着るときの腰に巻く下着のことですが、この腰巻は、用途が大きく異なります。上流武家女性に夏の正装に用いた衣装です。この階級の夫人が正装する際は、小袖に重ねて打掛を着用しましたが、夏は涼しく過ごせるものを望みました。それで、打掛の肩を外し、腰周りに巻きつける方法がとられるようになりました。江戸中期になって、下に着る小袖は、上質の麻製の帷子かたびらを用いて、写真のようなパターンの色、生地、模様の腰巻を着用するようになったのです。

上流武家女性の夏の正装  
黒紅練緯地宝尽模様腰巻



二代山中新五郎像 江戸後期  
資料番号：14200001

笹屋 二代山中新五郎の肖像画です。笹屋は、本郷四丁目(現、東京都文京区)に一七二一年(正徳元)から店を構えていた商家で、光明膏こうみょうこうという目薬が有名でした。江戸の豪商と呼ぶにふさわしく、一八三七年(天保八)には千両の幕府御用金を上納した記録が残されています。本肖像画には勝田宣徳たのぶのりによる賛が寄せられ、「日霞藤原秀英画」の署名があります。絵師、日霞については不詳ですが、笹屋という江戸の豪商の姿を知ることができる貴重な資料です。

目薬で有名な江戸の豪商、笹屋  
二代山中新五郎像



式亭三馬扇面 江戸後期  
資料番号：14000893-14000894

式亭三馬(一七七六年(安永五)―一八三二年(文政五))は、浅草で生まれた江戸後期の戯作者です。銭湯の会話を通して庶民の生活を描写した「浮世風呂」、江戸の町内の様子を活写した「浮世床」などで知られています。三馬は、はじめは本屋、後には売薬店を営みつつ、戯作を執筆していました。猫や吉原について記した、この扇面二面は、三馬のご子孫が所有していたもので、三馬の自筆と認められます。

「浮世風呂」「浮世床」の作者、三馬の自筆  
式亭三馬扇面

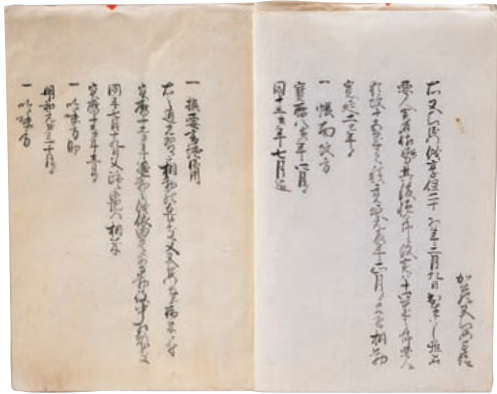


# 2014年度(平成26)

2014年度も、みなさまのご協力によって、その一部をここに紹介いたします。

国学者加藤枝直・千蔭父子を生んだ家  
町方与力加藤家文書

加藤家は、江戸市中の治安を守る町方与力を務めた家です。初代の加藤枝直は、町奉行大岡忠相の下で、町方与力に召し抱えられました。枝直は、「公事方御定書」のもとになった法令集の作成にあたり、その子千蔭も、町奉行所の法令判例集「撰要類集」の編纂にたずさわりました。また、枝直と千蔭は、国学者・歌人・書家として名をなしています。本資料は、加藤家の由緒書と枝直の手蹟集を中心としたもの。町方役人の勤めぶりや、高い教養を見ることができ



江戶末期  
枝直君より巳来御役前録其外巨細書  
資料番号：14200130

東京オリンピックのバッジ  
第18回オリンピック競技大会  
識章バッジ (PRESS)

一九六四年(昭和三九)に東京で開催された、第18回オリンピック競技大会で使われた識章バッジです。デザインは河野鷹思(とうし)大会シンボルマークの「丸」をあしらっていて、七宝とリボンで作られています。この報道関係者用バッジは、当時、大手新聞社のスポーツ記者だった方(故人)が使用したものです。東京オリンピック組織委員会事務局で広報を担当していた女性から寄贈していただきました。お二人は、東京オリンピック後に共通の知人を通じて知り合い、結婚されました。



第18回オリンピック競技大会  
識章バッジ (PRESS)  
1964年(昭和39)  
資料番号：14000881

竹内邸スチールパイプ椅子  
土浦亀城デザインのパイプ椅子

日本ではまだ木製の椅子が一般的だった昭和のはじめころ、金属を加工して椅子を作る技術が紹介され、当時の建築家たちは試行錯誤しながら新たなデザインの椅子を設計しました。建築家土浦亀城によるこの椅子は、彼の知人である竹内氏の自宅を新築するときに一緒に設計されたもので、居間にくつろぐための椅子として作られたものです。この椅子の設計図面と、竣工時に撮影された写真は、すでに当館の資料となっています。



竹内邸スチールパイプ椅子 1933年(昭和8)  
資料番号：14050001

## 名 建 築 で お 寺 め ぐ り

都市歴史研究室 研究員 米山勇

関東大震災と第二次世界大戦の空襲、2度の災禍を経験した東京は、古い建物が残りにくい都市といえるだけに、残された建造物はみな貴重な存在である。明治時代のレンガ造や石造の建物も他道府県に比べると東京は少なく、江戸時代以前のものとなると、より一層希少さは際立つ。そうした貴重な古建築を見ることができる場所となると、寺院ということになる。今回は、近世以前に建てられた寺院建築のなかでも指折りの名建築を紹介する。

まずはお寺の玄関口、門を見に浅草寺と増上寺を訪ねてみよう。金龍山浅草寺は、古代以来の歴史を持つ古刹である。現在の風雷神門（雷門）は、五重塔や本堂などと同様、戦後の鉄筋コンクリート造建築だが、慶安期建立の二天門が残っている。三間一戸（柱間が3つ、出入口が1つの意）八脚門、切妻造、本瓦葺の建物は、かつて境内にあった東照宮への門として建てられたもので、同時期建立の浅草神社とともに国の重要文化財に指定されている。寺院の門ではもうひとつ、増上寺三解脱門（国指定重要文化財）が別格の存在だ。寛永寺と並ぶ徳川家菩提寺として栄えた増上寺は浄土宗寺院だが、三解脱門は五間三戸二階二重門という本格的な禅宗三門の形式をとる。末寺と本寺の関係にある知恩院三門（京都、国宝）とともに、徳川家菩提寺としての威厳を示すため、宗派を超えた造立がなされたのであろう。ところで、増上寺三解脱門の建立は1621年（元和7）とされている。この年代には疑問があり、実際には寛永期より下のものではないかと考えているが、それについて興味がある方は、拙稿「増上寺三解脱門の建立年代に関する一考察」（『東京都江戸東京博物館 紀

要 第3号』所収）をぜひお読みいただきたい。

寺院建築の「華」といえば五重塔であろう。江戸時代建立の五重塔としては、旧寛永寺五重塔と池上本門寺五重塔が現存している（ともに国指定重要文化財）。現在、上野動物園の敷地内にある旧寛永寺五重塔は1639年（寛永16）に土井利勝が寄進したもので、屋根は五重のみ銅瓦葺とし、その他は本瓦葺とする。高めの通減率（上すばまりの割合）を持ち、安定感のある全体像が美しい。一方、本門寺の五重塔は1607年（慶長12）の建立で、初重、二重を本瓦葺、三重以上を瓦棒銅板葺とする。相輪伏鉢の刻銘から、徳川秀忠の乳母岡部局の発願、寄進により建立されたことがわかっている。旧寛永寺五重塔より時代を遡る建築だが、地面から初重屋根までが長く腰高なうえに通減率が低めなので、近世的なスマートさが際立つ。安定感にすぐれた旧寛永寺五重塔とスマートな本門寺五重塔を見比べて、どちらが好きかを選ぶのも楽しいだろう。

最後に別格中の別格を。東村山市にある正福寺地藏堂である。室町中期の1407年（応永14）に建立された仏堂で、鎌倉時代に伝わった禅宗様という様式が全面的に採用されている。入母屋造柿葺（裳階は銅板葺）で、強い軒反り、詰組（柱上だけでなくその間にも組物を載せる）、花頭窓、弓欄間、棧唐戸など禅宗様の特徴が随所に見られる。ほぼ同時期同形式の円覚寺舍利殿（鎌倉）とともに関東における本格的な禅宗様仏堂として極めて貴重であり、東京の寺院建築としては唯一国宝に指定されている。まさに必見の寺院建築である。



増上寺の雪  
川瀬巴水/画、佐藤寿録吉/彫、斧銀太郎/摺  
1953年（昭和28）9月 資料番号：07200017



正福寺地藏堂

撮影：米山勇

企画展

リニューアル記念企画展 特別公開  
**広重「名所江戸百景」展**

3月28日(土)ー5月10日(日)

江戸の多彩な都市景観と風俗を描いた「名所江戸百景」は、歌川広重最晩年の代表作で、遠近を強調する斬新な構図をはじめ、彫り・摺りにも優れ、完成度の高い作品です。後期印象派の画家ゴッホに影響を与えたことでも知られ、国内外で最も有名な浮世絵シリーズの一つです。

このたび、常設展示室のリニューアルを記念し、全一〇〇枚(二代広重作画及び目録含む)を前・後期(4月21日(火)ー)に分けて展示いたします。全点公開はめったにないチャンス。皆様のご来場をお待ちしております。



「名所江戸百景 亀戸梅屋舗」  
 歌川広重/画 1857年(安政4)  
 資料番号:83200030  
 全期間展示



「名所江戸百景 大はしあたけの夕立」  
 歌川広重/画 1857年(安政4)  
 資料番号:83200053  
 全期間展示

春期えどはくカルチャー

今期のおすすめ!! 特別展関連講座

徳川家康没後400年記念 特別展「大 関ヶ原展」(3月28日(土)ー5月17日(日))、2015年NHK大河ドラマ特別展「花燃ゆ」(6月4日(木)ー7月20日(月・祝))、2つの特別展の開催にあわせ、関連講座を開催します。豪華講師陣による多彩なレクチャーをお楽しみください。

**「大 関ヶ原展」関連講座**  
 14:00ー15:30 全5回 定員200名  
 各回受講料:1,000円(800円)

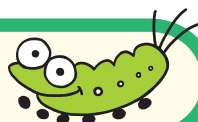
- ①「大 関ヶ原展」のみどころ(申込終了しました)
- ②石田三成 ……………太田浩司(長浜城歴史博物館館長)  
 4月17日(金) 申込締切:4月1日(水)
- ③小山評定をめぐる史料と由緒  
 ……………尾上仁美(小山市立博物館学芸員)  
 4月24日(金) 申込締切:4月8日(水)
- ④関ヶ原合戦に至るまで……………谷口央(首都大学東京准教授)  
 5月1日(金) 申込締切:4月15日(水)
- ⑤徳川家康と洋時計 ……………落合偉洲(久能山東照宮宮司)  
 5月8日(金) 申込締切:4月22日(水)

**「花燃ゆ」関連講座 14:00ー15:30 全3回 定員200名**  
 各回受講料:1,000円(800円) セット受講料:2,400円(2,000円)  
 セット受講申込締切:5月22日(金)

- ①「花燃ゆ」の時代 幕末明治維新史  
 ……………木村幸比古(霊山歴史館副館長)  
 6月9日(火) 申込締切:5月22日(金)
- ②吉田松陰とその故郷・長州萩「英傑」を育てた謎に迫る—  
 ……………道迫真吾(萩博物館主任研究員)  
 6月16日(火) 申込締切:5月29日(金)
- ③群馬時代の杉文(榎取美和子)  
 ……………手島仁(前橋市歴史文化遺産活用室長)  
 6月23日(火) 申込締切:6月5日(金)

※( )内は江戸東京博物館・江戸東京たてもの園友の会、ボランティアに所属の方対象の受講料となります。応募方法や上記以外の講座など、詳しくは館内配架の「えどはくカルチャー」チラシまたは江戸東京博物館ホームページをご覧ください。

たてもの園から



次回特別展のお知らせ  
**「モダン都市の文学誌」展**  
 会期: 6月2日(火)  
 ー7月20日(月・祝)

関東大震災によって江戸の名残が失われた東京では、従来の盛り場・浅草に加えて、カフェや百貨店が進出した繁華街・銀座、あるいは私鉄の開発をみた西郊からの玄関口・新宿など、モダン都市の様相が現れるようになりました。

本展覧会では、こうした街の特徴を描いた文学作品から、『浅草紅団』(川端康成)、『つゆのあとさき』(永井荷風)、『新宿スケッチ』(龍膽寺雄)、『春園』(横光利一)などをもとに、都市東京の移り変わりとともに、郊外の姿を紹介します。



『浅草紅団』1930年(昭和5)  
 川端康成/著 吉田兼吉/装丁  
 先進社/発行  
 資料番号: 92530001

入園者数500万人を達成!!

昨年の11月23日(日・祝)、たてもの園では入園者数が開園以来500万人を数えました。記念式典が行われ、500万人目となった千葉市からお越しの伊達様ご一家には、関係者とともにお祝いのくす玉を割っていただきました。



500万人達成!!

また、昨年7月10日(木)から今年3月15日(日)までの特別展「ジブリの立体建造物展」開催期間中に、約40万人ものお客様がご来園くださいました。

詳しいお問い合わせは

江戸東京たてもの園

〒184-0005 小金井市桜町3-7-1(都立小金井公園内)

☎042-388-3300(代表)

http://www.tatemonoen.jp

春期 ふれあい体験教室

【事前応募制教室】

お申し込み方法

往復はがきに住所・氏名(ふりがな 2名様まで)・年齢・電話番号・希望講座名を明記の上、下記へ(締切日消印有効)。\*講師:ふれあいボランティア  
〒130-0015 墨田区横綱1-4-1 江戸東京博物館 ボランティア事務局  
ふれあい体験教室係

●歴史散歩「三田南部と高輪界隈を歩く」

5月30日(土) 荒天時は6月6日(土)に順延  
集合:13:00 時間:13:15-16:00  
対象:一般 定員:20名  
応募締切:5月16日(土) 参加料:無料



【当日受付教室】

\*いずれも参加料無料(常設展示室内で開催の教室は観覧券が必要)  
\*講師:ふれあいボランティア  
\*3階江戸東京ひろばで開催の教室は、荒天などによるひろば閉鎖時は中止となります。

●和算のひみつ

4月4日(土)、6月6日(土)  
時間:各日13:00-15:30  
(受付終了15:00)  
場所:常設展5階ミュージアム・ラボ  
対象:小4以上



●歌舞伎の鳴り物をならしてみよう

5月16日(土)、6月20日(土)  
時間:①12:00-12:30  
②14:00-14:30  
\*各回とも時間内にお越しください。  
場所:常設展5階ミュージアム・ラボ  
対象:幼児~一般



●反古紙で折る小物

—江戸のエコロジーを見習おう—  
4月4日(土)、6月6日(土)  
時間:各日13:00-15:30  
(受付終了15:00)  
場所:常設展5階ミュージアム・ラボ  
対象:小4以上



●扇子遊びをしましよう

5月16日(土)  
時間:12:45-13:45  
\*各回とも時間内にお越しください。  
場所:常設展5階ミュージアム・ラボ  
対象:一般



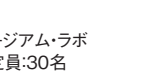
●ときめきキモノ体験

4月25日(土)  
時間:10:30-12:00(受付終了11:30)  
場所:常設展5階ミュージアム・ラボ  
対象:3歳以上  
定員:15名



●江戸文様で遊ぼう

～消しゴムはんこで千代紙をつくる～  
5月30日(土)  
時間:13:00-15:00  
場所:常設展5階ミュージアム・ラボ  
対象:小学生以上 定員:30名



●水無月茶席

6月6日(土)  
時間:①13:00-13:30  
②13:45-14:15  
③14:30-15:00  
(12:00より会場前で各回の整理券配布)  
場所:1階会議室  
対象:一般 定員:各回15名

●両国にぎわい祭り 5月2日(土)・3日(日)

場所:3階江戸東京ひろば北側休憩所  
●New! 手描き風鈴を作ろう  
5月2日(土)  
時間:10:30-12:00  
対象:小3以上 定員:20名



●藍染体験教室

5月2日(土)  
時間:12:30-14:30  
(整理券配布12:20)  
対象:小学生以上 定員:先着50名



●みんなで遊ぼう!昔あそび

5月2日(土)  
時間:13:30-15:00  
対象:5歳以上



●New! リリアンで遊ぼう

5月2日(土)  
時間:13:30-15:00  
対象:5歳以上



●祭り茶席

5月3日(日)  
時間:①13:00-13:30  
②13:45-14:15  
③14:30-15:00  
(12:00より会場前で各回の整理券配布)  
対象:一般 定員:各回13名



●歴史散歩

「広重の名所江戸百景(両国)今昔」  
5月3日(日)  
時間:①10:30-11:30  
②14:00-15:00  
(各回15分前より受付)  
集合場所:北側休憩所看板前  
対象:一般 定員:各回15名



図書室  
だより

図書室で見る「関ヶ原合戦図屏風」

史料としても美術品としても見ごたえのある「関ヶ原合戦図屏風」。『戦国合戦絵屏風集成 第3巻 関ヶ原合戦図』には、3種類もの「関ヶ原合戦図屏風」が収載されています。屏風に描かれたさまざまな場面の部分拡大図とその解説も充実しており、飽きることなく読み進められる1冊です。

図書室には、ほかの博物館の展覧会図録や出版物も多く収蔵しています。彦根城博物

館の図録『よみがえる関ヶ原合戦-関ヶ原合戦図を読む-』、関ヶ原合戦図屏風に関する論文が掲載された研究紀要、『いくさ場の光景 大阪城天守閣収蔵 戦国合戦図屏風展』図録なども7階図書室の「大 関ヶ原展関連図書コーナー」でご覧いただけます。

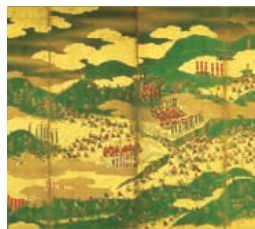


今年も国立国会図書館運営「レファレンス共同データベース」事業への貢献が認められ、4日目の表彰を受けました!レファレンス事例集をホームページで公開しています。

表紙解説

重要文化財 関ヶ原合戦図屏風(左隻、部分)  
江戸初期 大阪歴史博物館蔵

津軽家に伝来した関ヶ原の戦場を描いた屏風。表具を含めると優に2メートルを超える大作です。記録によると、1612年(慶長17)に徳川家康の養女満天姫が、津軽信牧に嫁ぐ際に持参した作品といわれます。津軽家では重宝として伝えました。合戦からあまり時間を経っていない時の作品です。右隻では前哨戦となった大垣城付近の攻防、左隻では本戦の様相を描いています。



編集  
後記

3月28日(土)は江戸東京博物館の22歳の誕生日です。さらに、常設展示室のリニューアルオープンと特別展「大 関ヶ原展」スタートの日でもありました。この日、リニューアルオープンを記念し、フォーラム「伝統文化の海外発信と異文化理解」を開催しました。2020東京オリンピック・パラリンピックを迎えるにあたり、東京の歴史や文化をさらにわかりやすく、楽しくお伝えできるよう、様々な工夫と努力を重ねていきたいと考えています。これまで以上に応援いただけますよう、ぜひともよろしくお願いいたします。(H)

江戸東京博物館  
NEWS vol. 89

次回vol.90から紙面デザインもリニューアルします。

発行日 平成27年3月31日(火)  
編集・発行 (公財)東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館 〒130-0015 東京都墨田区横綱1-4-1  
印刷・制作 株式会社 恒陽社印刷所

※無断転載を禁じます。  
※展示・催し物等の日程・内容等は変更になることがあります。

お問い合わせ先

☎03 (3626) 9974 (代表)

ホームページ <http://www.edo-tokyo-museum.or.jp>

来館のご案内

- JR総武線「両国駅」西口から徒歩3分、東口から徒歩7分
- 都営地下鉄大江戸線「両国(江戸東京博物館前)駅」A3・A4出口から徒歩1分
- 都バス錦27・両28・門33系統墨田区内循環バス南部ルート「都営両国駅前(江戸東京博物館前)」下車、徒歩3分

